

北陸地方 3か月（6月～8月）予報解説

2026年5月19日 新潟地方気象台発表

予報のポイント

- 向こう3か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高い見込みです。

	平均気温（向こう3か月）	降水量（向こう3か月）
北陸地方	低10 並20 高70% 高い見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率（%）です	<p>平均気温（3か月）</p> <p>低い確率（%） 50 40 40 50 高い確率（%） 以上 平年並も40以上</p>	<p>降水量（3か月）</p> <p>少ない確率（%） 50 40 40 50 多い確率（%） 以上 平年並も40以上</p>

季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。

「平年並」がどの程度の値になるのかについては、参考資料（<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/sankou/hokuriku3.html>）をご覧ください。

文章による解説については、確率の大きさに応じた言葉で表現しています。詳しくは本資料末尾の「参考（確率予報の解説）」をご覧ください。

月別の天候

- 各月の天候については、以下のとおりです。

6月	<ul style="list-style-type: none">• 期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
7月	<ul style="list-style-type: none">• 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
8月	<ul style="list-style-type: none">• 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

北陸地方

梅雨入り平年：6月11日頃

梅雨明け平年：7月23日頃

月別の平均気温 北陸地方

暖かい空気に覆われやすいため、各月とも高い見込みです。

	平均気温 6月	平均気温 7月	平均気温 8月
北陸地方	低10 並30 高60% 高い見込み	低10 並30 高60% 高い見込み	低10 並30 高60% 高い見込み
数値は予想される出現確率 (%) です	<p>平均気温 6月</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%)</p> <p>以上 平均並も40 以上</p>	<p>平均気温 7月</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%)</p> <p>以上 平均並も40 以上</p>	<p>平均気温 8月</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%)</p> <p>以上 平均並も40 以上</p>

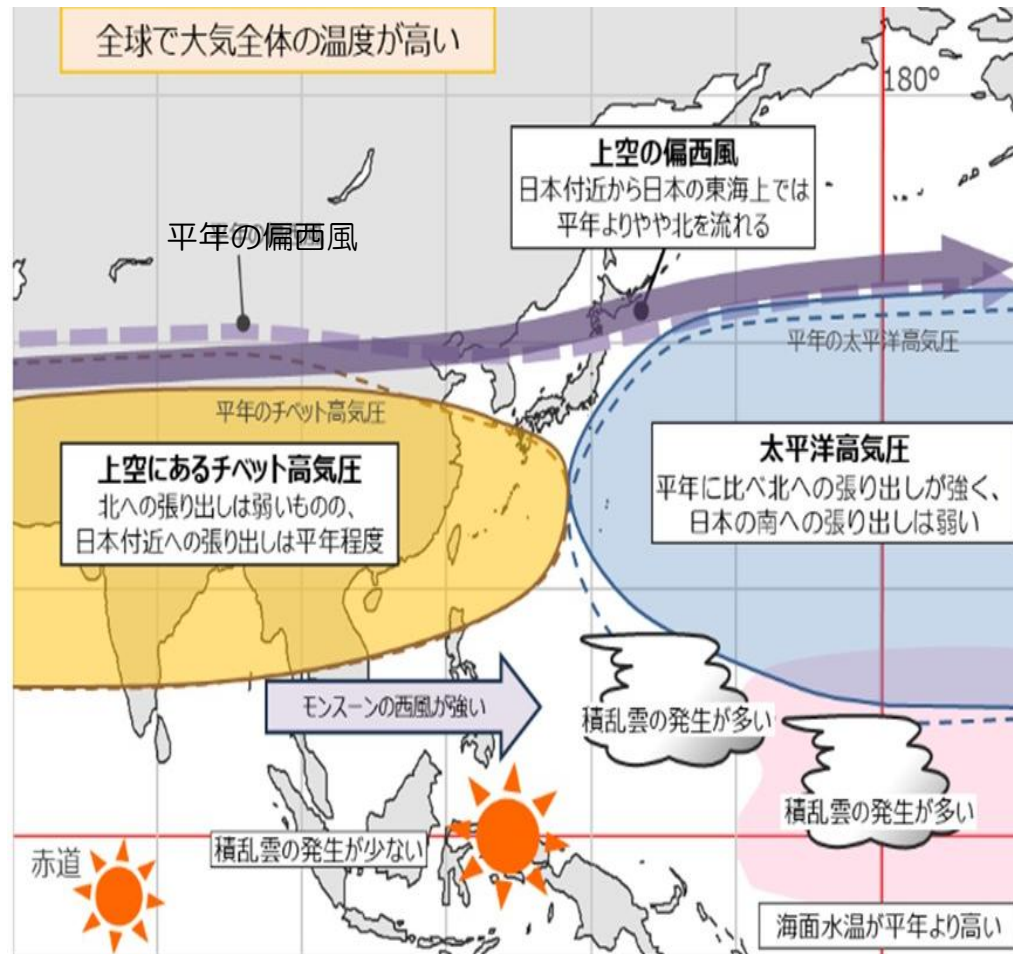
月別の降水量 北陸地方

各月ともに、ほぼ平年並の見込みです。

	降水量 6月	降水量 7月	降水量 8月
北陸地方	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率 (%) です	<p>降水量 6月</p> <p>少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 以上 平年並も40% 以上</p>	<p>降水量 7月</p> <p>少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 以上 平年並も40% 以上</p>	<p>降水量 8月</p> <p>少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 以上 平年並も40% 以上</p>

3か月（6～8月）の予想される海洋と大気の特徴

- ▶ 地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が高いでしょう。
- ▶ エルニーニョ現象が発生する可能性が高く、海面水温は太平洋赤道域の東部から中部で高く、北太平洋熱帯域の中部でも高いでしょう。また、モンスーンの西風が強いでしょう。このため、積乱雲の発生はフィリピンの東から太平洋中部で多いでしょう。
- ▶ 一方、インドネシア付近からインド洋にかけては積乱雲の発生が少ないでしょう。
- ▶ これらの影響により、上空の偏西風はユーラシア大陸では平年より南を流れるものの、日本付近から日本の東海上では平年よりやや北を流れる見込みです。チベット高気圧は北への張り出しは弱いものの、日本付近への張り出しは平年程度でしょう。また、太平洋高気圧の北への張り出しは強く、日本の南への張り出しは弱いでしょう。
- ▶ これらのことから、日本付近は暖かい空気に覆われやすいでしょう。



数値予報結果をもとにまとめた予想される海洋と大気の特徴

- 気温は、高い見込みです。
十分な熱中症対策
- 降水量は、ほぼ平年並みの見込みです。
近年は梅雨時期など大雨の発生頻度が増加しています。
梅雨前線の活動が活発化する時期もある見込みで、最新の気象情報により一層の留意をお願いいたします。